

取扱い説明書

【使用手順】

開封

アルミラミネート袋をはさみ等で切り、必要枚数を取り出します。袋の開口部を2~3回折り、クリップなどでとめて冷蔵保存します。

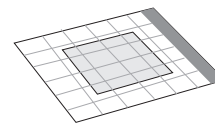
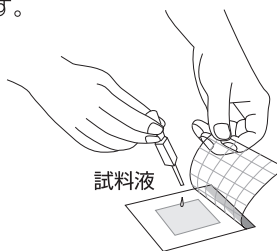


試料液添加 検査

① 試料を滅菌希釈液(注1)に加え、ストマッカーなどで懸濁します。環境試料の場合は、検査場所をふき取ったガーゼ、綿棒などを滅菌希釈液に入れ、良く振盪して、菌を溶液中に懸濁します。懸濁液を適宜希釈し、試料液とします。

② サニ太くんのカバーを開け、不織布部分の中心部に試料液 1.0mLを加えます。

③ カバーを再び閉じます。(注3)

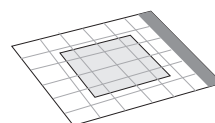
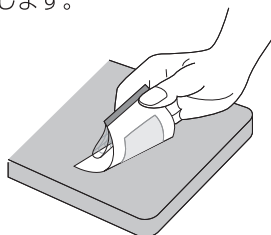


スタンプ法 検査

① サニ太くんのカバーを開け、不織布部分に1.0mLの滅菌希釈液(注1)を加え、再びカバーを閉じて10分以上静置しておきます。(注2)

② カバーを開け、不織布部分で器材や対象面をスタンプします。スタンプした後に消毒剤がしみこんだ清潔な布でふき取ることをおすすめします。

③ カバーを閉じます。(注3)



綿棒によるふき取り 検査

① サニ太くんのカバーを開け、不織布部分に滅菌希釈液(注1) 1.0mLを加えておきます。(注2)

② 検査場所をふき取った綿棒などで不織布部分全体に塗りつけます。

③ カバーを再び閉じます。(注3)

フィルター試料 検査

① サニ太くんのカバーを開け、不織布部分に滅菌希釈液(注1) 0.8~1.0mLを加えておきます。(注2)

② 試料をろ過したメンブランフィルターを不織布部分の上に置きます。

③ カバーを再び閉じます。(注3)

落下菌 検査

① サニ太くんのカバーを着色テープ部分で折り曲げます。

② 不織布部分を上にし、一定時間放置します。

③ 滅菌希釈液(注1) 1.0mLを加えます。

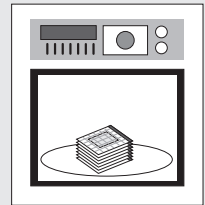
④ カバーを閉じます。(注3)

培 養

試料名等を書き込み、

・一般生菌用	… 35℃ 48時間	・一般生菌用迅速タイプ	… 35℃ 24時間
・大腸菌群用	… 35℃ 24時間	・真菌用迅速タイプ	… 25℃ 48時間
・黄色ブドウ球菌用	… 35℃ 24時間	・大腸菌・大腸菌群用	… 35℃ 24時間
・サルモネラ用	… 35℃ 24時間		で培養します。(注4)

正確な判定には上記の培養時間±2時間以内で判定してください。それ以上培養すると目的とする菌以外のコロニーが発色することがあります。



判 定

●生育したコロニーを判定します。

「サニ太くん」の発色特徴は以下の通りです。

一般生菌用 …赤色に発色したコロニーとして検出されます。
多菌数(10⁷cfu/mL以上)になると発色しないことがあります。多菌数が予測される試料については希釈することをお勧めします。

一般生菌用迅速タイプ…赤紫色に発色したスポットとして検出されます。

大腸菌群用 …青色～緑色に発色したコロニーとして検出されます。

真菌用迅速タイプ …赤いスポット、またはカビ、酵母が産生する特有の色素を伴った赤いスポットとして検出されます。
(かびと酵母の推定には3日以上培養するとよりわかり易くなります。)

黄色ブドウ球菌用 …24時間培養後に出現するコロニーの内、黒いスポットに周りが青く発色したコロニーが黄色ブドウ球菌のコロニーです。(黒いスポットのみ、または青い発色のみのコロニーは黄色ブドウ球菌のコロニーではありません。)
判定に迷うときはそのコロニーをマーキングしてさらに6時間以上培養すると明確に判定できます。

大腸菌・大腸菌群用 …大腸菌群のコロニーは青色～うす緑色または藍色に発色し、大腸菌のコロニーは藍色に発色します。

サルモネラ用 …鮮明な青色～緑色のコロニーとして検出されます。(大腸菌群は紫色のコロニーとして検出されます。)

※大腸菌群用は一部の未加熱食材、乳酸発酵製品(乳酸菌を多く含む製品)、黄色ブドウ球菌用は一部の未加熱食材において、食材に含まれる酵素または乳酸菌が産生する酵素によって発色剤が反応し、不織布部分全体の発色が見られることがあります。

大腸菌・大腸菌群用とサルモネラ用も大腸菌群用と同様の現象がみられます。これは数時間後から確認できます。

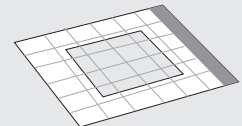
予測される試料については培養後早めに試料由来の発色がないかを確認してください。

また、希釈することをお勧めします。(試料由来の発色が薄くなり判定しやすくなります。)

※「サニ太くん」が発色する食材リストについては、お問合せください。

※「サニ太くん」の発色特徴については発色特徴資料又はサニ太くん発色見本表をご覧ください。「サニ太くん」ホームページ(アドレスは本書下部に記載しております)をご覧ください。資料をお送りいたします。

●定量する時、数が多い場合は格子マス内を数えて面積換算してください。1マス内を数えた場合は、その20倍が不織布部分全体の数になります。



廃 棄

使用済み培地シートは、滅菌処理をおこなった後、廃棄してください。

釣 菌

カバーを開き、不織布表面の着色コロニーから白金線などを使って、軽く刺すことによって釣菌することができます。

注1：滅菌生理食塩水、滅菌水、滅菌0.1%ペプトン加生理食塩水等が使用できます。(1ml添加用には別売りの滅菌水パックがあります。)

注2：滅菌希釈液添加後、アルミ袋等にもどして密封し冷蔵保存すれば3週間までの保管が可能です。

注3：カバーと下部シートの間大きな隙間ができないように、また、不織布面を押さえつけないようにカバーを閉じてください。液添加時にしわができることがあります。検査には影響ありません。大きくしわが発生した時は、カバーを閉じた後にカバーの上から水がしみ出さない程度に軽く押えてしわをつぶしてください。

注4：培養は30枚程度積み重ねることができます。

●使用上の注意

- ・本品は日常の微生物検査を目的とするもので、本品のみで確定的に食中毒菌を判定できるものではありません。
- ・黄色ブドウ球菌、サルモネラの確定には、純培養した後、生化学的な確認試験を行ってください。
- ・変色や汚れのみられた培地シートは使用しないでください。
- ・培地シートは直射日光や紫外線ランプ等が当たるところには置かないでください。また長時間、蛍光灯に当たる所に置かないでください。不織布面が変色することがあります。
- ・2～15℃の冷暗所(冷蔵庫が望ましい)で保存し、開封後は1ヶ月を目安に使い切ってください。ただし未開封であれば3ヶ月間の常温保管(25度前後)が可能です。開封後のものについても同様に常温保管ができますが、1ヶ月を目安に使い切ってください。
- ・使用期限を過ぎたものについて品質の保証はできません。
- ・使用したシートは菌を増殖させたものです。2次汚染させる危険性がありますので、使用後は他の物との接触はなるべく避け、必ず滅菌処理を行ってください。
- ・不織布部分に細かい褐色の粒子、短繊維またはしみがみられることがありますが、成分中の不溶物や不織布繊維の一部、または成分の溶け上がりによるものであり、検査に影響を与えるものではありません。
- ・ご使用に際しては本「サニ太くん」取扱説明書に従ってください。
- ・お客様の試料については自ら検証いただくことをお勧めいたします。

●補償について

- ・当社は、使用期限内に見えられた、当社の製造物流保管等による商品の破損・欠損に対してのみ補償いたします。
- ・検査結果の判断と運用はすべてお客様の責任によるもので、当社及び販売店が責任を負うものではありません。

JNC株式会社
ライフケミカル部

〒100-8105 東京都千代田区大手町2丁目2番1号
TEL 03-3243-6225 FAX 03-3243-6219

サニ太くんホームページ

<http://www.chisso.co.jp/sanita/>

e-mail : sanita-kun@chisso.co.jp